

サンゴ
噂の「35パン」



揚げた食パンに砂糖をまぶした35パンは、春高でしか販売していないオリジナル商品。食欲旺盛な春高生からは、安くておいしいと評判である。

春高の昼休みは11時20分からの30分間（一層）と12時55分からの20分間（二層）の2回に分かれている。パンの販売が行われるのは一層。



「材料費が高騰しているから本当なら値上げしたいのはやまやまだけど、春高生たちが『35パン』って名付けちゃったから、値上げできないんですよ（笑）。儲けにはならないけど、おなかをすかせた生徒さん

そんな心配をよそに笑顔でこう語る。今この時代に35円のパンが存在すること自体驚きだが、こんな価格設定で果たして利益が出るのだろうか？ まつばの奥さん・笠松和江さんは、

**学生の喜ぶ顔が見たいから
低価格にこだわり続ける**

「友達の間で安くて人気なのは、なんととっても35パン。その名の通り35円で販売されているので、すぐに売り切れてしまうんです。どうしても食べたいときは、チャイムが鳴ると同時に教室を飛び出し買いに行きます」

パンにはマーガリンを使わずにバターのみを使用。パン生地発酵にも自家製の天然酵母を使っている。「春高生たちの胃袋をがっちりつかむのも私たちの役目ですが、毎日食べるパンが彼らの健康の一端を担っていると思うと、安全面でも気は抜けません」

**春高生たちのエネルギーの
源となっているまつばのパン**

まつば名物「プリンパン」

自家製プリンをパン生地の中に詰めてオープンで焼きあげ、一度冷ました後に生クリームを注入した人気のプリンパン。これぞ春高生の青春の味！



「おいしい！」でみんながつながるまち。

1

春高生の胃袋をわしづかみ！

春日部高校（通称：春高）の生徒の登下校時には、多くの学生の姿でにぎわう東武アーバンパークライン八木崎駅周辺。この地にパン屋を構え、約40年に渡って春高生たちの胃袋を支え続けてきたのが「まつば」だ。春高生にとって「まつばのパン」とはどんな存在なのか？「まつば」にとって春高生とは？

おいしいパンを毎日食べ過ぎて、太っちゃったかも

春日部高校3年
よねはら みさお
米原 三輝郎さん

春高生に人気が高いのはプリンパンと35パン

八木崎駅近くに店舗を構える「まつば」は、約40年に渡って春高に昼食用のパンを納入している老舗のパン屋さんだ。毎日11時20分、校舎3階の販売スペースに焼きたてのパンがずらりと並べられるやいなや、おなかをすかせた生徒たちによる熾烈な

頭の動きを良くするには適度な糖分も必要なのよ

パンの争奪戦がスタートする。お気に入りのパンは生徒によってそれぞれ異なるが、春日部生まれで、子どもの頃からまつばのパンの大ファンだという3年生の米原三輝郎さんのお目当てはプリンパン。「基本的には弁当持参派ですが、昔からこの店のプリンパンが大好きで、デザート代わりにつついって買っちゃうんですよ。1年生の時に毎日



まつば奥さん
かさまつ かづえ
笠松 和江さん

早めにパンが売り切れてしまいそうな時は、店に一度戻って補充することもあるとか。「せっかく並んでくれたのに、買えなかったら生徒さんたちに申し訳ないですからね」（まつば店員）



高校時代に食べたパンの味が懐かしくなって、卒業後ふらりとまつばを訪れる春高OBの姿も珍しくない。

あった。点数至上主義の時代になつて、それが失われてしまったのでは、と不安に思っていたんです。でも、今回久しぶりに学校を訪れてみると、学生の気質も昔とほとんど変わっていないことが分かって、ほっとしました」

春高生たちの元気な姿が背中を押してくれている

まつばのご主人・笠松徹さんも、昔と変わらない春高生たちの姿に好感を覚えているという。

「春高生の存在が仕事への励みになっているのは間違いありません。彼らは勉強だけでなく、春高祭や体育祭にもすごく一生懸命に取り組んでいる。そんな姿を見ると、私ももつとがんばらなきゃ、ってエネルギーが湧いてくるんですよ。それに生徒さんたちが喜んで食べてくれるからこそ、商売が続けられているし、パン作りへのモチベーションも保っているわけですからね。これからも体力と気力が続く限り、地域に愛されるパン屋を目指して精進していくつもりです」

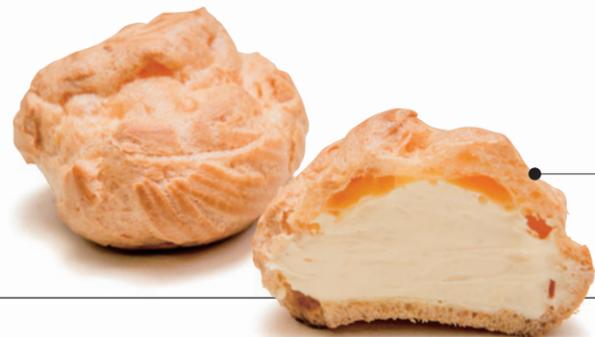


数多くの北村作品の中でも、『スキップ』(新潮文庫)には、春高をモチーフにしたと思われるシーンが数多く登場する。17歳の女子高生が突然25年後に飛び、内面はそのまままで高校教師になってしまふというストーリー。



これからもおいしいパンを作り続けて!

魅力を感じているようだ。「最近はおしゃれな店名のパン屋が増えていますが、あえて時流に乗ろうとしないところが素敵なんです。人も風景も時代とともに変わっていくけど、ずっと変わらずにいてほしいものがありますよね。たとえば春高生らしさもそのひとつです。私が教員の頃の春高生は何事にも一生懸命でありながらも、いい意味で馬鹿になれる『おおらかさ』が



この店のシュークリームは日本一ですよ!

そう言っていたいてありがとうございます

春日部高校OB・作家

きたむら かおる
北村 薫さん

1949年、埼玉県北葛飾郡杉戸町生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、高校の国語教員をしながら執筆活動を続け、1989年にミステリー作家としてデビュー。2009年『鷲と雪』で直木賞を受賞。

産として買っていました。シュークリームの名店と呼ばれる店は他にもあるけど、そういうところのクリームは総じて濃厚すぎるんです。その点、まつばさんのクリームは甘さ控えめで日本人の口に合う。大げさに聞こえるかもしれないけど、このシュークリームは日本一といっているんじゃないかな」

今でも北村さんは月に何度かは店を訪れて、パンや洋菓子を購入している。決して今どき風とはいえない、昔ながらの店のたたくまにも

北村さん大絶賛の「シュークリーム」

濃厚すぎずあっさり味のクリームがたっぷり詰まったシュークリーム。毎週金曜日がケーキの販売日で、チーズケーキも北村さんのお気に入り。

「まつばさんも春高も、ちっとも変わってないのがうれしいね」

まつばご主人

かさまつ とおる
笠松 徹さん

現在、小説家として活躍中の北村薫さんは、春高OBであると同時に、国語教員として12年間母校で教鞭をふるった経験ももっていて、今でもまつばの常連である。

「私の高校時代は、まつばのパンはまだ学校で売られていなかったように記憶していますが、教員時代はまつばさんのシュークリームが好きで、よく学校の帰りに家族へのお土産として買っていました。シュークリームの名店と呼ばれる店は他にもあるけど、そういうところのクリームは総じて濃厚すぎるんです。その点、まつばさんのクリームは甘さ控えめで日本人の口に合う。大げさに聞こえるかもしれないけど、このシュークリームは日本一といっているんじゃないかな」

パンだけでなく、まつばの洋菓子にも注目すべし!



1986年、春日部高校の教員だった頃の北村さん(春日部高校同窓会提供)